

日高教第71次全国教育研究集会を 愛媛県松山市にて開催！

11月22日、愛媛県松山市「にぎたつ会館」において愛媛高教組主管のもと、日高教第71次全国教育研究集会、第71回愛媛高教組教育研究集会および第63回四高連教育研究集会が開催された。友誼団体である福岡教育連盟、大分県公立高等学校教職員組合からの参加者を含めて、全国から約60名、一般参加を含めて約150名が参加した。

開会行事では、山能書記次長の進行のもと、小松山中央執行副委員長が開会宣言を行った。議長には愛媛高教組から池内執行副委員長、副議長には栃木高教組から田中書記次長が選出された。日高教鯉沼中央執行委員長の挨拶に続き、開催県を代表して愛媛高教組の菊池執行委員長が挨拶した。引き続き、廣瀬中央執行副委員長より、松本洋平文部科学大臣及び関連団体からの祝電・メッセージが披露された。

落合書記長からは基調報告がなされ、「調整授業時数の導入」、「大学における教職課程の簡素化」や「業務の3分類」について報告がなされた。

開会行事後は愛媛県出身の落語家、桂三幸様をお招きし記念講演が開催された。記念講演ではこれまでにない講演で、「桂三幸の話芸に学ぶ洗練されたコミュニケーション術」と題し、落語やお笑いを科学的に織り交ぜたような講演を聴講した。記念講演の後半は、落語も披露された。



記念講演で落語を披露する
桂三幸氏

◎教育研究集会挨拶

<日高教中央執行委員長>



挨拶をする
鯉沼中央執行委員長

日高教第71次全国教育研究集会の開催にあたり、日本高等学校教職員組合を代表してご挨拶を申し上げます。

主管県である愛媛県高等学校教職員組合をはじめ、構成単組・友誼団体の皆様方には、日頃より日高教へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、教育現場に目を向けると、働き方改革は思うように進まず、高校の部活動地域展開については「中学校の部活動改革が進むことで、地域のスポーツ・文化芸術環境が整備され、高校生も対象とした活動が広まってくることが期待されるため、このような環境整備を進めながら、高等学校においても順次検討を進めていく」と春季独自要請で文科省より回答を受け、停滞している状況です。つまり、物価高騰などにより不安定な現在の社会情勢と同様、高校・特別支援学校の将来が不透明で本当にこの職業で定年まで安心して働けるのかと疑問を感じざるを得ません。

現状において、教員不足や教職をめざす若者の減少、過去最多の精神疾患による休職者などの課題があり、少子化が急速に進むなか不登校の児童生徒は過去最多となっています。われわれ教職員が子どもたちと向き合い、子どもたちの未来を作っていく使命を果たしていくためには、教員の働き方を現場の声にもとづき変革していかなくてはなりません。

日本高等学校教職員組合は、文科省をはじめとする関係各省庁に、そして、各政党に教育現場の実状を伝え、具体的な教育施策を示し、制度や施策に反映されるようしっかりと交渉してまいります。そのためにも、現場からの声の日高教に集約されることはとても大切です。みなさんの思いをぜひ、日高教へ届けてください。

2025年を振り返ると、大阪・関西万博が開催され「命輝く未来社会のデザイン」をテーマに「いのち」と「つながり」、「体験」の意義にもとづいたパビリオンでは先端技術や伝統文化を展開されました。開幕前は、開催に否定的な意見も多く、公式キャラクターのミャクミャクも不思議なフォルムとデザインによって波紋がありました。しかし、この不思議な存在が広く浸透し、愛着あるキャラクターになっています。閉幕後には予想を上回る黒字を記録し、好評を博しました。

さて、本日は教育研究集会ですので、われわれを取り巻く情勢について述べさせていただきます。

本年度の教育を取り巻く環境は大きなうねりにあります。精神疾患による病気休職者数は昨年度からさらに増加し、7,119人に達します。また、少子化が進むなか若者の教職ばなれが止まることはなく、本年度の教員採用試験の倍率も低迷し採用試験の前倒しも効果が疑われるところ です。

そのようななか、6月の給特法等改正法改正によって、1月あたりの時間外在校等時間をこれまで以上に削減し、月30時間程度をめざすとしています。教職員一人当たりの授業時数削減や教育課程の編成の在り方を検討するなど、教員の負担軽減に対する策が示されていますが、中学校の35人学級や部活動の地域展開など多くが義務教育に付随する事項となっています。また、高校の授業料実質無償化が始まり、私立高校の授業料が全額無償となることで、次年度以降の公立高校に進学する生徒像に何かしらの影響が考えられます。日高教として、私立高校の授業料無償に相応する費用を、公立高校の施設設備面や部活動指導手当の増額など教育環境および勤務環境の改善につながるよう求めております。

われわれは、万博の成功にもとづき、時代の変化に合わせ理想的な教育をめざし、その実現に向けた改善の取り組みを進めていかなければなりません。日高教は、組合員の一人ひとりの声を大切に、大きな不利益が生まれないよう、広い視野と適確な判断にもとづく「是々非々」、「不偏不党」を堅持した運動を展開しています。今後も、日高教の取り組みに対しご支援をお願いいたします。

本研究集会では、記念講演および各県からの発表が予定されています。「つながり」と「体験」により一つでも多く学びを得る集会となり、各県での教育の更なる振興と充実に寄与することを祈念し、日高教を代表しての挨拶といたします。

基本方針

憲法及び教育基本法に則り、高校・中等教育学校及び特別支援学校における教育の振興と充実、教育の中立と学問の自由を基本とする民主教育を確立する。

<開催県(愛媛県)執行委員長>

日高教第71次全国教育研究集会、第63回四高連教育研究集会、第71回愛媛県教育研究集会の開催にあたり、四高連並びに開催県を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

日高教に結集する組合員の皆様、ようこそ愛媛県松山市へお越しく下さいました。松山市は、俳人・正岡子規ゆかりの地であり、歴史と文化が息づく街です。松山城をはじめとする観光名所も多数存在します。道後温泉の湯に癒され、瀬戸内海の穏やかな風景に心を和ませ、地元食材を生かした料理など愛媛県を堪能していただければ幸いです。各単組の皆様には、日頃より熱心に教育活動に取り組んでいただいておりますことに敬意を表しますとともに、組合諸活動へのご協力に対し、心より感謝申し上げます。

本県における教育研究集会は昭和28年に第1回を開催して以来、半世紀以上にわたり、組合員の皆様の地道な教育実践にもとづいた多くの研究が積み重ねられてまいりました。これらの研究は、他からのいかなる強制を受けることなく、私たち組合員自らの手で、教育に携わる者の視点で、学校における諸問題や教職員の勤務状況等の問題を取り上げて研究してきたところに大きな意義があり、積年の研究が愛媛県の教育の充実・振興に多大な成果を収めてまいりました。本日は「豊かな人間性を養い、一人ひとりを見つめ育てる教育はいかにあるべきか」のメインテーマのもと、研究成果を発表していただきますが、本研究集会にご参集いただきました多くの皆様に、活発な討議をしていただく中で、教育のさらなる充実・発展に向けた確かな歩みが積み上げられるものと確信いたしております。

さて、コロナ禍を契機に学校現場は劇的な変化をしてきました。児童生徒の1人1台端末の利用や校務DX化など、われわれも新しい対応に追われています。同時に県内においては、振興計画による再編整備、学校の魅力化、地域との共同学習なども進められています。現場の教職員は一から手探りで計画、準備そして実施をしている状況です。教職員の働き方改革が進められているなか、教職員の業務改善に向け多くの支援員が配置される一方で新たな仕事も増えてきているのが現状です。教職員の献身性に支えられてきた学校の仕組みを大きく見直す時期にきております。今回発表していただくテーマは、学校現場の変化に対応した私たちの働き方の見直しにつながるものばかりでございます。各学校の課題や県立学校全体での課題など、職場からの切実な声を共有することはもちろん、建設的な取組や効果的な実践例なども共有していただき、個々人が実感できる働き方改革につなげてきたいと考えております。

文部科学省は、来年度予算に関する概算要求で教職調整額を段階的な引上げ、中学校段階までの定数改善、外部人材の充実などに向けた要望を出しました。また、「教師を取り巻く環境整備特別部会」からは「学校と教師の業務の3分類」の見直し、改正給特法の附帯決議には各自治体が主体的に業務削減に関わることや時間外在校等時間の記録の見直しなどが上げられました。そういった動きの背景には、日本高等学校教職員組合などの教職員団体の働きかけがあります。

私たちは教育現場に携わる者の視点で議論を重ね、その声を集約していくという良識ある活動を粘り強く継続していかなければなりません。私たちは組合活動を通して、現場の工夫だけではできない環境改善を訴えていきます。本日の研究集会を通して、各県での教育諸問題について研修を深め、より充実した教育の実現に向け、英知を結集し、課題解決につなげていきたいと考えています。

結びに、本研究集会が実り多きものとなりますよう、ご参集の皆様にご協力をお願い申し上げますとともに、本会の開催にご協力いただいた多くの方々、特にご多用の中、調査・研究活動を行っていただいた方々に心より感謝申し上げます、ご挨拶といたします。



挨拶をする
愛媛高教組菊池執行委員長

◎教育研究集会日程

12:30~13:00	受付	分科会次第		
12:30~13:00	打合せ会	①司会者挨拶	②記録係委嘱	③発表者紹介
13:00~13:30	開会行事	④発表・討議	⑤分科会まとめ	
	①開会宣言	16:40~17:00	閉会行事	
	②全体会議長選出・挨拶		①分科会報告	
	③日高教中央執行委員長挨拶		②全体会議長退任挨拶	
	④開催県執行委員長挨拶	17:30~18:00	③閉会宣言	
	⑤来賓挨拶		日高教教文部長会議	
	⑥祝電・メッセージ披露	18:30~20:30	レセプション	
	⑦基調報告			
	⑧諸連絡			
13:30~15:00	記念講演			
	講師 桂 三幸 氏			
	演題			
	「桂三幸の話芸に学ぶ洗練されたコミュニケーション術」			
15:15~16:35	分科会			
	第1分科会			
	第2分科会			
	第3分科会「特別支援教育」			

◎集会構成

- (1) 全体会（開会行事・閉会行事）
 議長：池内 大輔〔愛媛〕、田中友理佳〔栃木〕
 記録：日高教中央執行部
 司会：山能 研司（日高教）

(2) 分科会

分科会	司会	記録	発表テーマ
第一分科会	山中 寿紀〔高知〕 越智 勇太〔愛媛〕	田中友理佳〔栃木〕 上田 柁慶〔愛媛〕	○本校の部活動再編とその影響について 宮代 由愛〔福島〕 ○徳島県公立高等学校普通科の通学区域制について 松下 洋平〔徳島〕 ○愛媛県の働き方改革の現状と展望について 三好 亮太〔愛媛〕 ○総合的な探究の時間や課題研究の各学校の取組について 小笠原康太〔愛媛〕
第二分科会	林 竜太郎〔徳島〕 中川 颯人〔愛媛〕	藤原 弘一〔島根〕 大下 彩乃〔愛媛〕	○職場の働きやすさ（校務分掌の精選、人手不足など）について 遠藤 陽介〔栃木〕 ○高知県の現状と新しい取り組み 小野 邦生〔高知〕 ○「教師の働き方改革」～福岡県の施策を高等学校現場から考える～ 水上 高志〔福岡〕 ○普通校における特別な支援を必要とする生徒の現状と教職員の対応について 源代 貴臣〔愛媛〕
第三分科会	特別支援教育 由田 桂一〔福島〕 真部 颯人〔愛媛〕	石部 毅〔大分〕 高橋 遼介〔愛媛〕	○知的障害児におけるICTを活用した読み書き支援の取り組み 津森 太郎〔島根〕 ○働き方・県の動向を踏まえた、今後の特別支援教育に向けて ～宿泊学習・生成AI・寄宿舍の取り組み～ 若林 諭〔栃木〕 ○特別支援学校のセンター的役割の現状と課題 小野 敦也〔愛媛〕

◎第一分科会の様子



◎第二分科会の様子



◎第三分科会の様子

